

2019年8月28日(水)

第3回 日米貿易協定密約問題 野党合同ヒアリング  
省庁出席者

■内閣府

内閣官房 TPP 等政府対策本部内閣参事官 桐山 伸夫

■外務省

北米局北米経済調整室長 荻原 宏

■農水省

大臣官房国際部国際経済課長 三野 敏克  
生産局飼料課流通飼料対策室長 姫野 崇範

■経産省

通商政策局経済連携課経済連携企画官 寺西 規子

■防衛省

整備計画局防衛計画課長 坂本 大祐

# 日米貿易交渉：閣僚協議及び首脳会談結果概要

2019年8月  
内閣官房TPP等政府対策本部

## 1 日時

- 閣僚会合： 8月21～23日（茂木大臣、ライトハイザー通商代表）  
米国ワシントンDC
- 日米首脳会談： 8月25日、仏国ビアリッツ

## 2 結果概要

- 21日から23日にかけて、茂木大臣とライトハイザー通商代表が、事務レベル協議を挟みつつ、3日間にわたり協議を行い、大きな進展を見ることができた。
- 25日の日米首脳会談においては、昨年9月26日の日米共同声明に沿って、茂木大臣とライトハイザー米国通商代表との間で交渉が進められ、農産品、工業品の主要項目（Core Elements）について意見の一致を見たことを両首脳で確認した。
- また、両首脳は、閣僚協議の進捗を歓迎し、9月末の協定の署名を目指して、残された作業を加速させることで一致した。
- 本協定により、農産品については、過去の経済連携協定の範囲内で、米国が他国に劣後しない状況を早期に実現するとともに、工業品についても、日本の関心に沿った関税撤廃・削減が実現することで、双方に利益となる貿易・経済関係の強化が可能となる。

## 日米共同声明（2018年9月26日）

1 2018年9月26日のニューヨークにおける日米首脳会談の機会に、我々、安倍晋三内閣総理大臣とドナルド・J・トランプ大統領は、両国経済が合わせて世界のGDPの約3割を占めることを認識しつつ、日米間の強力かつ安定的で互恵的な貿易・経済関係の重要性を確認した。大統領は、相互的な貿易の重要性、また、日本や他の国々との貿易赤字を削減することの重要性を強調した。総理大臣は、自由で公正なルールに基づく貿易の重要性を強調した。

2 この背景のもと、我々は、更なる具体的手段をとることも含め、日米間の貿易・投資を互恵的な形で更に拡大すること、また、世界経済の自由で公正かつ開かれた発展を実現することへの決意を再確認した。

3 日米両国は、所要の国内調整を経た後に、日米物品貿易協定（TAG）について、また、他の重要な分野（サービスを含む）で早期に結果を生じ得るものについても、交渉を開始する。

4 日米両国はまた、上記の協定の議論の完了の後に、他の貿易・投資の事項についても交渉を行うこととする。

5 上記協定は、双方の利益となることを目指すものであり、交渉を行うに当たっては、日米両国は以下の他方の政府の立場を尊重する。

—日本としては農林水産品について、過去の経済連携協定で約束した市場アクセスの譲許内容が最大限であること。

—米国としては自動車について、市場アクセスの交渉結果が米国の自動車産業の製造及び雇用の増加を目指すものであること。

6 日米両国は、第三国の非市場志向型の政策や慣行から日米両国の企業と労働者をより良く守るための協力を強化する。したがって我々は、WTO改革、電子商取引の議論を促進するとともに、知的財産の収奪、強制的技術移転、貿易歪曲的な産業補助金、国有企業によって創り出される歪曲化及び過剰生産を含む不公正な貿易慣行に対処するため、日米、また日米欧三極の協力を通じて、緊密に作業していく。

7 日米両国は上記について信頼関係に基づき議論を行うこととし、その協議が行われている間、本共同声明の精神に反する行動を取らない。また、他の関税関連問題の早期解決に努める。

日米貿易交渉に関する日米両首脳の見聞記者会見  
(8月25日、於：フランス、ビアリッツ)

令和元年8月25日  
外務省

(注：トランプ大統領とライトハイザー通商代表の発言は仮訳)

(トランプ大統領)

ありがとう。我々は、長い間、日本とのディールに取り組んできた。それは、農業、電子商取引、その他多くを含む。非常に大きな取引である。我々は、大筋で合意した。何十億ドルもの規模のものである。農家にとって極めて大きな意味のあるものである。

また、安倍総理が合意したことの一つは、米国国内の至るところで、とうもろこしが余っている。なぜなら、中国がすると言っていたことをしていないからだ。日本を代表し安倍総理が、日本はそのとうもろこしを全て購入するのである。これはとても大きな取引である。日本はとうもろこしを米国の農家から購入する。

このディールは、原則として完結した。おそらく、国連総会の頃に署名するだろう。国連総会の日頃である。我々全員が楽しみにしている。我々はほとんど最後の方の段階にいる。我々は全ての事項に合意し、現在は準備中であり、正式な行事で署名する。

安倍総理と日本国民に感謝したい。あなたは素晴らしい友人である。我々はそれに非常に感謝している。これは、米国にとって極めて大きな意味のあるディールである。我々の農家、酪農家にとっても極めて大きな意味のあるディールである。また、先ほども言ったように、電子商取引など他の事項も含まれる。非常に大きなものである。これからが楽しみである。ありがとう。

(安倍総理)

昨年の9月26日の共同声明に則って、茂木大臣とライトハイザー通商代表で、今日まで、議論を重ねてきたが、23日に、工業品と農産品のコアエレメンツについて、意見の一致を見たことを歓迎したいと思う。

9月に、国連の機会に私が訪米する際に首脳会談を行い、調印できることを目標に、さらに、事務的に詰めていくことがまだあり、文書化し、協定を妥結するに至りたい。調印を目指していきたい。そのための作業を加速させたいと思う。

両国にとってウィンウィンの形で進んでいることを嬉しく思う。両国の経済にとって間違いなく大きなプラスとなると思う。

(トランプ大統領)

もしかすると、貴総理は、とうもろこしの追加購入について話されたいかもしれない。現在、大量のとうもろこしを保有している。農家と共に取り組んでいるが、彼らが中国に不公正に扱われていたために、我々は多額の支払いをしている。

農家は非常に喜んでいる。彼らは彼らの大統領が好きだ。彼らは非常に喜んでいる。しかし、貴総理が農家の生産物を実際に購入すると農家が聞けば、より良いし、また、彼らはより喜ぶだろう。

貴総理におかれては、数億ドルのとうもろこし、既に生産されたとうもろこしの購入を予定されていることについて、ごく簡単に言及いただけないか。

(安倍総理)

先ほどお話のあったとうもろこしについては、害虫対策の観点から、今我々は購入を必要としている、これは民間レベルなのだが、前倒しで、緊急な形で購入をしなければならないと民間も判断をしているので、協力できると思う。また、それ以外については、またよく大統領と相談したいと思う。

(トランプ大統領)

日本の民間部門は日本の公的部門に非常によく耳を傾ける。自分はよく分からないが、おそらく、我が国とは少し異なる。日本の民間部門は、日本の公共部門に非常に大きな敬意を有している。(日本の)民間部門がこれに合意したと聞き、我々は非常に嬉しい。ポブ(ライトハイザー通商代表)、そして君のカウンターパート(茂木大臣)に、何かあれば、発言いただきたい。

(ライトハイザー通商代表)

素晴らしい。大統領、総理、茂木大臣、ありがとう。まず、我々が達成したのは主要な原則に関する合意である。これには、農業、工業関税、そしてデジタル貿易の三つの部分がある。我々の視点から見れば、これは、米国の農家及び酪農家、デジタル空間に関わる人々にとって極めて重要である。

詳細については別の機会に触れることとしたいが、一般論として、日本は、米国にとって第3位の農業市場である。日本は、約140億ドルの米国農産品を輸入している。この合意は、70億ドルを超える米国農産品に市場を開けるものである。

この合意は、農業分野において、牛肉、豚肉、小麦、乳製品、ワイン、エタノール、その他様々な産品に大きな恩恵をもたらす。

この合意は、幅広い分野において、関税及び非関税障壁の大きな削減につながる。一つの例を挙げたい。日本は、圧倒的に、我々の最大の牛肉市場である。我々は日本に20億ドル以上の牛肉を売っている。我々は、より低い関税によって、幅広い相手、特に TPP 諸国及び欧州と、より効果的に競うことができるようになる。

したがって、我々の農家及び酪農家にとって非常に良いことであり、更には、国際的な協定のゴールドスタンダードであり、これはデジタル電子商取引に関わる人々にとっても喜ばしいことである。大統領だけでなく、総理にとっても特に重要な分野である。

我々はこの合意に非常に興奮している。追加的な作業を終えて、可能な限り早く日本と米国において実施されることを楽しみにしている。

(トランプ大統領)

(茂木大臣に対して)何か話されたいことはあるか。

(茂木大臣)

(英語で発言)トランプ大統領、安倍総理、ありがとう。

(トランプ大統領)

ありがとう。

(茂木大臣)

昨年9月26日の両首脳の間共同声明に従って、ライトハイザー通商代表と私で日米貿易協定の交渉を進めてきた。

世界の GDP 第1位の米国と、そして第3位の日本、自由主義経済では第1位と第2位の両国として農業、そして工業、更にはデジタル貿易、こういったところで意見の一致を見た。このことは極

めて大きな成果だと思う。

今日は両首脳に、我々のこれまでの交渉の結果につき確認をいただいた。今後は一日でも早くこの署名ができるように、残された作業を、ライトハイザー通商代表、更には日米の事務方とも協力をして、しっかりと進めていきたいと思っている。

(トランプ大統領)

ありがとう。評価する。

(記者からの質問)

大統領。

(トランプ大統領)

どうぞ。

(記者からの質問)

自動車関税は維持されるのか。米側の自動車への関税である。

(トランプ大統領)

中国に関連する質問か。

(記者からの質問)

日本に関するものである。

(ライトハイザー通商代表)

削減される一連の工業製品関税がある。自動車関税はそのグループには入っていない。

(記者からの質問)

今後も維持されるということか。

(トランプ大統領)

それは場合による。あなたは日本のことを話しているのか、中国のことを話しているのか。中国は大きく異なる状況である。

(記者からの質問)

両国に関する答えを伺いたい。

(トランプ大統領)

中国については残る。日本については、現状維持である。今と同じ状況である。

その他全てのことに加えて、小麦の大量購入もある。小麦の非常に大きな購入であり、極めて多くのとうもろこしに速やかに発注が入るだろう。しかし重要なことは、それはこの協定には含まれないものである。我々は、これを補足的な合意ともできるかもしれない。そうであれ、我々はとても高く評価している。我々は、これは別の件として合意したところである。

とにかく評価したい。今後、我々は素晴らしい仕事をする。(米国の)農家はとても感謝している。ありがとう。

(記者からの質問)

別件について、イランの外務大臣がビアリッツを訪問するとの報道がある。この件を確認できるか。同外相に会う予定はあるか。

(トランプ大統領)

ノーコメント。ありがとう。

## 茂木大臣ぶら下がりの概要

日時：8月25日（日）現地時間16：29～16：52

場所：フランス・ビアリッツ

（茂木大臣）本日11時15分から約1時間、安倍総理、トランプ大統領の日米首脳会談が開催されました。その中で、日米貿易交渉について進展があった、このような報告をさせていただいて、非常にいい話なので、是非安倍総理と一緒にトランプ大統領が会見をしたいということで、その後、共同記者会見が先程行われたところです。私とライトハイザー通商代表にも同席をしてほしいということで同席いたしました。その内容について改めてご報告をしたいと思います。

日米貿易交渉につきましては、昨年9月26日の日米共同声明に沿って、私とライトハイザー通商代表との間で交渉が進められ、農産品、工業品の主要項目、core elements、もしくは、ライトハイザー代表は、core principlesという言葉を使っておりましたが、まあ、同じ言葉であります。この主要項目について、意見の一致を見、そのことを安倍総理とトランプ大統領が本日確認をいたしました。

日米両首脳は関係協議の進捗を歓迎し、9月末の協定の署名を目指して、残された作業が様々ありますので、これを目標にして残された作業を加速させるということで一致を見たところであります。

本協定によりまして、農産品については過去の経済連携協定の範囲内で米国が他国に劣後しない状況を早期に実現するとともに、工業品についても日本の関心に沿った関税撤廃、削減が実現することで、双方に利益となる貿易、経済関係の強化が可能になるとこのように期待しております。

（記者）会見でトウモロコシの話が大統領からなされたが。これについて伺いたい。

（茂木大臣）これは貿易協定とは別件の話だが、トウモロコシは中国の問題もあるので米国でだぶついていることへの懸念が示された。総理から、我が国では今年に入って、トウモロコシ等に寄生する害虫の被害対策の一環として海外のトウモロコシの前倒し購入を含む代替飼料の確保対策を実施することとしております。飼料用トウモロコシの多くが米国から買われていることからこの対策の実施によって、結果的に、これは民間企業の購入にということになりますが、米国のトウモロコシが前倒しで購入されることを期待していると、こういったことを総理としては説明されたところのように考えております。

（記者）通商拡大法232の話が貿易交渉の前、後と最中にもありましたが、232に基づいた追加関税なり、数量規制なりというのは、これはもうないという理解でよろしいでしょうか。



(茂木大臣) まず、我々ライトハイザー通商代表との間で9月26日の共同声明に沿って交渉を進めております。そして、共同声明におきましては、交渉を行っている期間については、お互いが信頼関係に基づいて交渉を進め、その精神に反する行動は取らないということが明記されております。そして、これは232の関税、232の適用を日本に対して行わないという趣旨であることは、昨年9月26日の首脳会談で確認をしているところでありますが、たまたま今日、トランプ大統領に対してこの種の質問がありまして、中国と日本の関係でトランプ大統領は答えていたと思いますが、中国について高関税がかかっているわけですね、これは変えないと。一方で、日本についても変えない、つまり232条の適用をしないと、このような話を今日もされていたのだと、このように理解いたしています。

(記者) トランプ大統領、先ほど交渉について、「合意」という言葉をライトハイザー代表と使っていたと思うのですが、今回「合意」ということではないのですか。

(茂木大臣) トランプ大統領はですね、大きな話をされますので、例えば “in principle” という言い方をされて、それについて、より正確にライトハイザー代表が “core principles” つまり、“core elements” のことでもありますけれど、そこで意見が一致したとこのように正確に表現されているわけでありまして、大きな流れとしては、合意となりますと、具体的なですね、例えば協定の内容、本文であったりとか、そういったものも含めたことになるわけですね、現在の段階、少なくとも私とライトハイザー通商代表との間では、この “core elements” について意見の一致を見たということになります。因みに、完全な合意というのは、協定にサインをするということになるわけですね、そこまでいっていない合意でいますと、大筋合意、これは協定の本文がリーガルスクラブの途中であるけれど、内容面では完全に合意している状態、これが大筋合意であります。そして、大枠合意、これは、一部の項目について作業中だが、協定本文はほぼ固まっている状態、これが大枠合意ということですね、今回、意見の一致を見たのは、こういう文章の形になっているものではなくて、それぞれの項目について意見が一致したということでもあります。内容的には違っておりませんが、合意と使う場合には、きちんとした協定の文章なり作ったものについて、一致している、この場合が合意でありますので、そういった意味では、意見の一致を見たという方が今の段階の状況を表すには適切な言葉だと思っております。

(記者) 今日の両首脳の間で、来月の署名を目指すという非常に大きい判断だったと思うのですが、大臣として、来月の署名というのは、実現可能性はどうかということについてお願いします。

(茂木大臣) 両首脳の間で、それを目指す、こういう目標を掲げて作業を加速させるということによって一致を見たわけでありまして。内容について合意をした後で、協定本文、さらには譲

許表等についてリーガルスクラブを日米で行って、それが整えば署名ということになるわけですし、23日にワシントンD.C.でも申し上げましたが、この後事務レベルの作業というのがたくさん残っております。本文を作っていく話から始まりまして、さらにはその前に原産地規則を決めたり、様々なことを急がなければいけないと思っておりますが、この目標に向けて作業を加速させるということに間違いありません。

(記者) 今日、首脳会談の中で、発効の時期についての意見交換はありましたか。

(茂木大臣) それはありませんでした。

(記者) 先ほどのライトハイザー代表の会見でも、アメリカの農家についても非常に大きいと、70億ドルの市場開放につながると、それに対して日本が求めていた自動車関税の撤廃については、それらではないと、”but not those”という言い方をされていて、一部の他の関税が無くなるということは言っていました。日本が求めていた自動車関税は無くならないわけで、そういう意味では、日本の交渉自体が敗北ではないかと思うのですけれども、それについては、いかがですか。

(茂木大臣) そういういい方はされていなかったと思います。例えば、農産品についてはどうなるという個別の内容は別にしまして、アメリカにとって今TPPの発効であったりとか、EUとの間で日EU・EPAが発効することによって、米国が劣後しているという状況が早期に解消されることによって、米国の農家にとってメリットになる、とこういう話はされていたと思います。そのうえで、決して日本の自動車につきましては、他国と比べて劣後している状況が今あるわけではありませんので、そういう解消しなければならないこういう問題ではありません。ただ、それ以上の内容につきましては、いま合意という段階ではありませんので、きちんと協定について合意をした段階で個別の内容についてはお話ししたいという風に思っております。

(記者) TPPの枠内という話で農業については、農産物関税は下げるということで合意したとか、意見の一致を見たわけですが、自動車については自動車本体の関税については、乗用車もピックアップトラックも日本からすれば取れなかったわけで…。

(茂木大臣) それは、間違っています。

(記者) 間違いですか？

(茂木大臣) というかですね、そこまで内容には踏み込んだ発言はされていないと思います。

いずれにしても、内容については合意がなされた段階で公表することになるわけでありま  
すけれど、お互いにとって win-win になるという、そういう意見の一致を見ていると、この  
ように思っております。今の段階で個別の品目についてこれの税率が何パーセントにな  
るとか、何年目にこうなるとかこういったことはお答えできません。コメントは控えたいと  
思います。

(記者) 敗北ではないかという指摘が当然国内から出ると思うのですけれども、これについ  
て大臣はどうお考えですか。

(茂木大臣) きちんと合意発表された段階でお話ししたいと思っておりますが、そのよう  
な形にはなっていない、そう確信をいたしております。

(記者) 細かい点ですけど、意見の一致を見たというのが正しいとおっしゃっていただけ  
れど、トランプ大統領は principle agreement と言って、ライトハイザー通商代表は core  
principle agreement と言っているわけで、彼らの言っている原則合意という言い方に対  
して異議を唱えるということではないのですか。

(茂木大臣) おそらく大統領は全体の進捗状況についてお話をされたのだと思うのですが、  
agreement in principle と言いますと、大筋合意のことですから、それは先ほど説明した  
ような状態でありまして、現状で行きますと主要項目について意見の一致を見た、ここ  
につきましては正しくライトハイザー通商代表もおっしゃっていたとそのように思います。

(記者) 5月末にトランプ大統領が日本に来た時に、8月に合意をできるだろう、発表でき  
るだろうという風に言っていたのですが。

(茂木大臣) そのように言ってません。

(記者) 確か、そういう言い方をしていたかと。

(茂木大臣) 合意などという話はしていないと思います。

(記者) いい発表ができるだろうということを言っていて…。

(茂木大臣) はい。

(記者) 実際に8月に発表になったわけですがけれども、トランプさんからすればですね。こ

これは、5月の段階で一定程度の合意ができていて、大枠なりですね、それが今出てきたというわけではないのでしょうか。やや…。

(茂木大臣) 違います。そういう期待感を示されたんだと思います。ご案内の通りですね、今年の4月からですけど、ライトハイザー通商代表との間では、7回に渡りまず閣僚協議を行ったわけでありまして。毎回毎回、相当な時間を掛けておりまして、特に、今回はワシントン D.C. で行いました協議は、1日目5時間、2日目4時間、3日も2時間、合計11時間の協議を行いました。また、6月以降は事務方による具体的な協議も鋭意進めてきたわけですので、そういった精力的な協議の結果、今日、いい発表ができたということだと思いません。

(記者) 今日、急遽共同記者会見を開かれたと思うのですが、どういう呼びかけが向こうからあったのか、どういう経緯で急遽開くことになったのかを教えてください。

(茂木大臣) この日米貿易交渉について明らかに大きな進展があった。両首脳でこれだけ大きな進展があったのだから、我々でまずは発表しようということになって、午後の時間急遽やることになりました。今日最初から決まっていたわけではありません。

(記者) 先ほどちょっと話に出ました、232の追加関税の件は、今日の首脳会談の場で、今後も協定が結ばれた後も発動しないという確約を取ったわけではないという…。

(茂木大臣) 今日はそのような話はしておりませんが、これまでの協議のなかでも、この問題につきましては、日本の関心はしっかりと伝えてあります。米側もこのことについては尊重するという姿勢でありますので、最終の仕上がり、この段階できちんとした対応をしたいと思いません。

(記者) 今日の段階で農産物の関税の具体的な関税率で挙げられるものはありますか。

(茂木大臣) ありません。

(記者) アメリカ向けの乳製品の輸入枠、TPPワイド枠と言われる枠については、どうでしょうか。

(茂木大臣) 過去の経済連携協定の範囲内というお話をしました。それでご理解いただければと思います。

(記者) トランプ大統領がトウモロコシの話で hundreds of millions of dollars という言い方をされていて、数億ドルということを具体的にいつているんですけども、また、朝の段階でトランプ大統領ですね、ミリタリートレードも大きなコンポーネントだという言い方をされていて、防衛装備品の話だと思うのですが、また、これまでトランプ大統領は日本側が工場を7つ出すと約束してくれたとか色んなことを言っているんですけど、そういった工場進出とか、防衛装備品の話ですとか、コーンの具体的な話は合意の中に入っているんでしょうか。

(茂木大臣) それは全く協定とは別であります。たまたま先ほどトウモロコシの話が聞かれましたので、私がお場で聞いたことをご報告したまででありまして、私は今、貿易協定についての会見を行っていますので、おそらく、それについては、このあと西村副官房長官にお聞きいただければと思います。

(記者) 数億ドルというトランプさんが言った数字は正しいのでしょうか。

(茂木大臣) ですから、今言ったとおりです。

(記者) 今の会見を伺っていると、署名の段階が初めての発表だというように聞こえるんですが、過去の協定では、例えば大筋合意の段階で細かい条文は別にして発表して、そのあとアメリカ等の手続きもあって署名まで何か月かあるというものが、過去にはあったと思うのですが、大臣としては、署名の段階の発表を考えている。

(茂木大臣) いえ、必ずしもですね、これまでも、大筋合意の段階で発表したりしております。これはおそらく、タイムラグがどれくらいあるかということで決まってくるのだと思いますが、大筋合意の確認を待たずに、そのままずっと進んで協定文までできてしまったら、もう署名をするわけですから、そういった大筋合意、もしくは完全な合意の段階、いずれにしても合意の段階で、内容については公表したいと思います。

(記者) それで、ぴったり署名の段階になるということではない。

(茂木大臣) まだわかりません。これからの作業ですから。

(記者) 簡単に2点お伺いしたいんですが、TPPについてなんですけれども、日本としては、米国にTPPに戻ってきてほしいという意図があったと思うんですが、今回、農業で、TPPより不利がないようにとすると、以後、米国が戻ってくるインセンティブがなくなってしまうんじゃないかという懸念がありますが、それについてはどう考えられますか。

(茂木大臣) 先程、範囲内で、という話を申し上げました。すべてがTPPと同じと、このようには申し上げておりません。

(記者) 2点目ですが、工業品で自動車などアメリカの特にセンシティブな分野において譲歩するというのが仮にあった場合にですね、その場合、農業と工業品の全体のパッケージのバランスっていうのは取れているとお考えでしょうか。

(茂木大臣) バランスの取れたパッケージにするということで、合意をいたしております、ライトハイザー代表との間で。じゃあ、どうバランスが取れているか、これは内容にかかわる分野でありますので、きちんと合意なり署名の段階で公表させていただき、どうバランスが取れているかと、それについても説明させていただきたいと思います。

(記者) 大臣は意見の一致とはいえですね、トランプ大統領と安倍総理が二人並んで会見をしてですね、まあ、何となく喜んでいる状態ですけど、交渉を担当されてきた大臣から見て、ご自身が最初掲げていた目標と今回到着した地点を比べた時に何点くらいの出来とご覧になっていますか。

(茂木大臣) 点数は私がつけるものではない、そんな風に思っております。いずれにしても、昨年9月の日米共同声明に沿って、いい交渉をすすめることができたなど、このようには考えています。

(記者) 確認ですけど、このペースで来月署名を目指すということは、アメリカのTPA法上は、署名する前の段階でいろいろ公表して、90日とかいろいろありますけど、ただ、このタイムスパンでやるとしたら、その法律に基づかずに、議会の承認もいらない、というのがアメリカ側の認識ということでしょうか。

(茂木大臣) 米国の国内手続きについては、私がコメントするのは控えたいと思います。

(記者) 確認になりますが、先程の記者会見ということだったのですが、記者団の中では2回目の会談というふうにも伝えられたのですけれども、そういうことではないのでしょうか。

(茂木大臣) 記者会見の打ち合わせをしました。せっかくいい成果が出たり進捗があったから、記者会見をやろうと急遽なりましたので、やるからにはどういう形、どういうことを言おうかという打ち合わせを簡単にした次第です。

(記者) アメリカのプレスセンターでやったという認識でよろしいでしょうか。

(茂木大臣) 会場の中なんですけど、元々決まっていた話ではなくて、非常にいい進捗をみたから、せっかくだからやろうという話になってですね、やるということになったら、当然若干の打ち合わせはやはり首脳間でも必要ですから、どういうことを言おうかということで打ち合わせをして、会見を行ったと、ついてはせっかくだからライトハイザー代表と私にも同席してほしいという話がトランプ大統領からありましたので、同席いたしました。

(記者) 会見の中で、ロイター通信によると、トランプ大統領は自動車の関税は変わらないというような発言をされているようなんですけども…。

(茂木大臣) 先程言ったとおりです。つまり、日本の話、中国の話、とたぶん聞かれた内容について、そのどちらかという話で、ロイターの方が質問したのかどうかわかりませんが、中国については、高関税は変わらない、そして日本についても、関税は変わらないということは232は適用されない、このような発言をされたんだと思います。

(記者) 1回目の首脳会談でトランプと総理の交渉といいましょうか、決めたことはなくて、あくまで大臣とライトハイザーの間で合意した内容を確認してということでしょうか。

(茂木大臣) そうです。

以上

(以上)